ONKYO®

3.1CH スピーカーシステム

UWA-205

SWA-205（サブウーファー）
ST-205M（サラウンドスピーカー）

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■独自のハイクォリティ設計、A-OMF*1ダイヤフラム採用サテライトスピーカー
20cm強力ウーファースリットダクト*2方式サブウーファー
■オンキヨー製SA-907FXと組み合わせ、サラウンド、サラウンドバックスピーカーとして拡張可能
■3.1チャンネルアンプとサブウーファーが一体化
映画だけでなく音楽、ゲームも臨場感あふれる迫力サウンドで再生
■簡単に接続できる色付接続コード付属
■リアルウッド突板(つきいた)仕上げ*3キャビネット

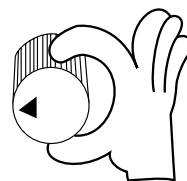
*1 **独自開発A-OMFダイヤフラム採用のスピーカーユニット**
振動板素材には強度、内部ロス率をより高度に両立する新素材PEN（ポリエチレンナフタレート）をくわえた3層構造のA-OMFを採用。音楽再生はもちろんDVD映画など急激な信号の変化が多いデジタルソースにも素早く反応します。サブウーファー、サテライトスピーカーには、音質の良い木製キャビネットを採用しています。

*2 ダクト形状を細長いスリット形状にすることにより、空気に十分な負荷をかけ、重心が低くスピード感あふれる超低音を再生します。また、この技術によりダクトからの風切り音などの音質に悪影響を及ぼす不要なノイズを極限まで低減させ、低域再生範囲の拡大もあわせて実現させています。

*3 自然の木材を表面化粧板として使用したリアルウッド突板仕上げの製品は、工業製品とは異なり、一つとして同じ木目模様のものはありません。これは原材料の木の年輪が表面にあらわれているためで、不規則な模様の変化や、濃淡の変化といった個性を持っています。
オンキヨーの製品は、自然が与えてくれる要素をできる限り生かしたいと考えています。このような個性も音楽を再現する道具の一部として味わってください。塗装や仕上げの品質に関しては、当社が定める基準できびしく管理しております。

ご注意

UWA-205は、SA-907FXとの組み合わせで使用するように設計されています。本機とSA-907FX以外との組み合わせ、サブウーファーと他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとセンター/サラウンドスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものをのせてしまうことがあります。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐにアンプの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
●移動させる場合は、アンプの電源スイッチを切り、スピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など思わぬ事故の原因になることがあります。
●壁はその材質、また桟などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては、十分にご注意ください。（専門業者にご相談ください。）

■ スピーカーコードは安全な場所へ

●スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災·感電の原因となることがあります。
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●電源を入れる前にはアンプの音量調整ツマミを最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

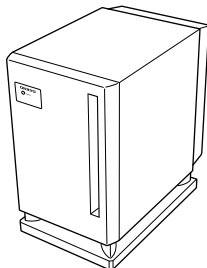
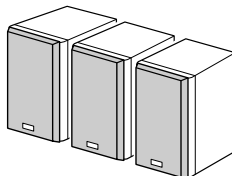
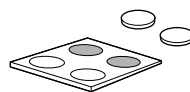
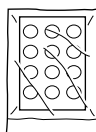
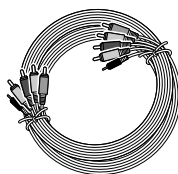
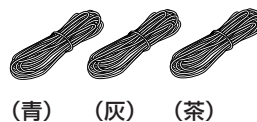
●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

付属品を確認する

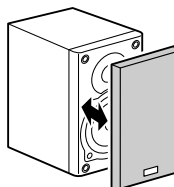
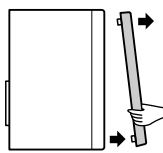
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

● サブウーファー(SWA-205)(1)

● サラウンドスピーカー
(ST-205M)(3)

● サブウーファー用
コルクスペーサー(一組〈4個〉)

● サラウンドスピーカー用
コルクスペーサー(一組〈12個〉)

● SWA-205専用接続コード(1)

● スピーカーコード
(サラウンド用) 8m(3)

● 壁掛け金具(3)
● ネジ(3)

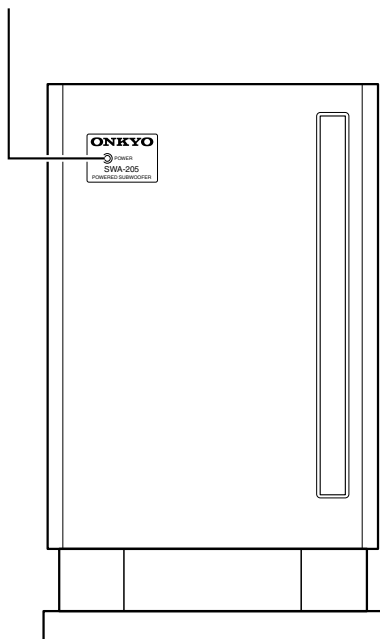
● 取扱説明書(本書1)
● 保証書(1)
● オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内(1)

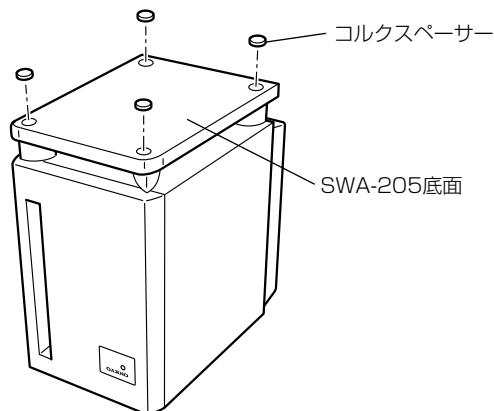
カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

スピーカーは前面のサランネットを取りはずすことができます。サランネットを取り付けたり、はずしたりするときは次のように行ってください。

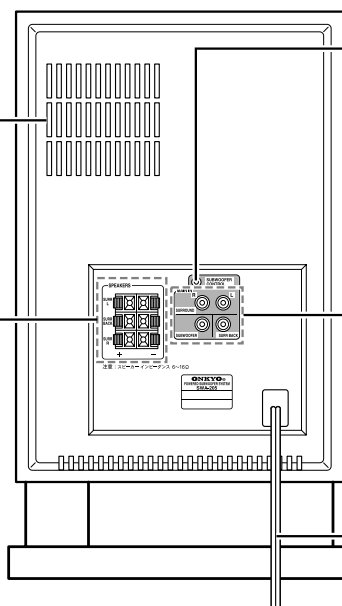
1. サランネットの端を持ち、手前に軽く引っ張り、サランネットの端をはずします。
2. 同じようにサランネットのもう1つの端を手前に引っ張ると、サランネットは本体からはずれます。
3. 取り付けるときは、サランネットの四隅にあるピンを本体のサランネット取り付けホルダーに合わせて押し込みます。

サブウーファー（SWA-205）

前面パネル

パワー
POWER インジケーター
電源が入っているとき、点灯します。

コルクスペーサーの使いかた

よりよい音でお楽しみいただくために、付属のサブウーファー用コルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

後面パネル

ファン
使用中、サブウーファーが熱を持ちすぎないよう、ある一定の出力になると回転します。

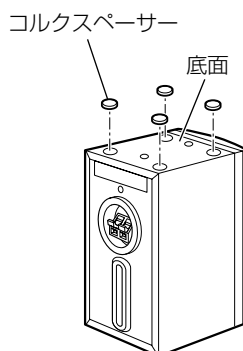
スピーカー
SPEAKERS 端子
左右サラウンド、サラウンドバックスピーカーを接続します。

サブウーファー　コントロール
SUBWOOFER CONTROL 端子
SA-907FXのSUBWOOFER CONTROL端子と接続します。

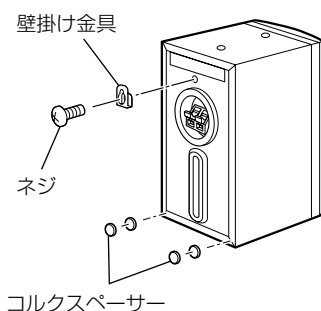
メイン　イン
MAIN IN 端子
プリ　アウト
SA-907FXのPREOUT端子と接続します。

電源コード

サラウンドスピーカー（ST-205M）

据置で使用する場合

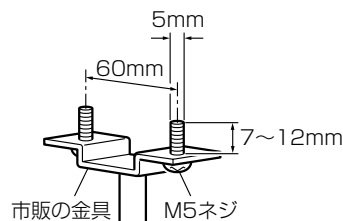
よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

壁に掛けて使用する場合

付属の壁掛け金具を使って壁に掛けることができます。

スピーカーの上下を逆にし、付属のネジを使ってスピーカーの背面に金具を取り付けます。付属のコルクスペーサーを図の位置に2枚重ねて貼り付けると、安定した設置ができます。また、サランネットは取りはずせますので上下逆にすることができます。

ご注意

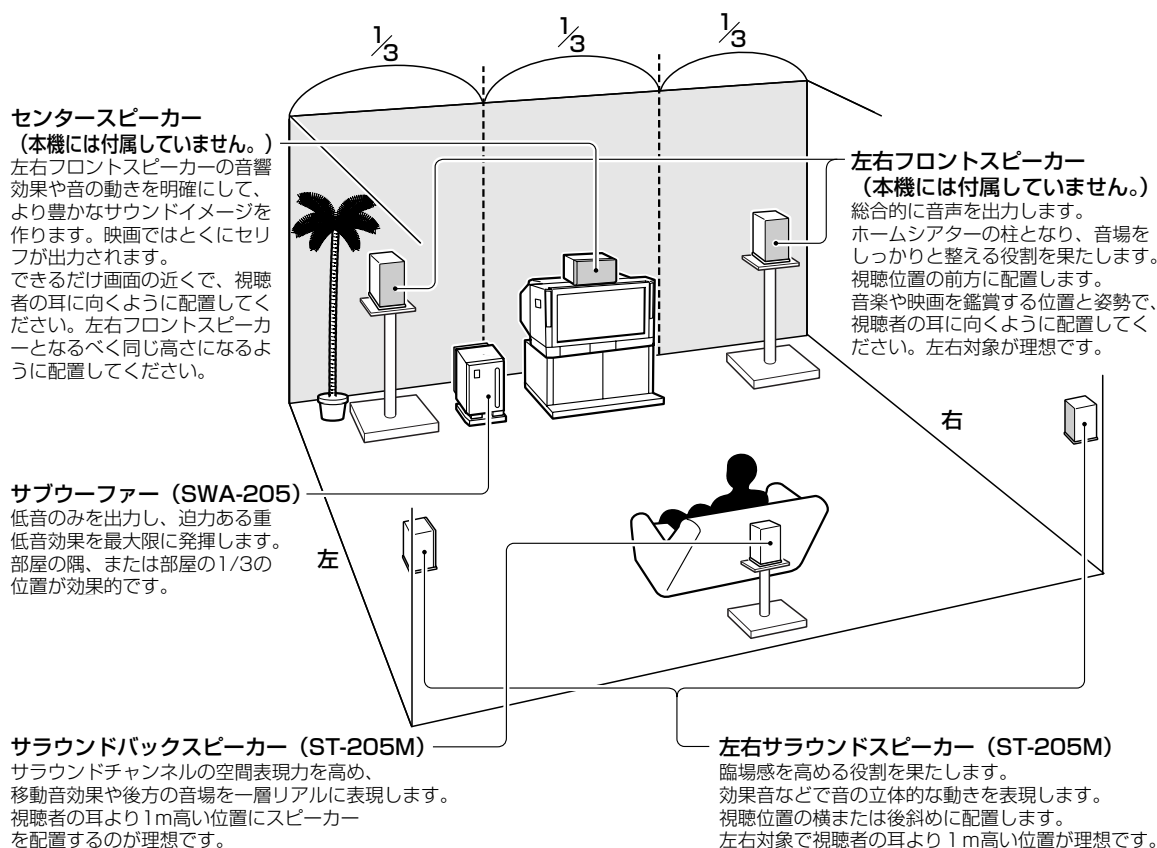
壁に取り付ける場合は、壁の強度に充分注意してください。材質、桟（さん）の位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ます。ネジは頭の直径が10mm以下、ネジ部の直径が4mm以下で、できるだけ太く長いものをご使用ください。（業者の方にご相談いただくのが安心です。）

市販のスタンドや金具を使って固定する場合

市販のスタンドや金具を使用できるように、スピーカーの背面にM5用ネジ穴1個、底面にM5用ネジ穴を2個設けています。取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。
スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドや金具の厚みを考慮して有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

ホームシアターとは

ホームシアターで楽しもう

UWA-205は、SA-907FXと別売の左右フロント、センタースピーカーを組み合わせることで音の立体感、移動感を表現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。(6.1chサラウンド再生)

設置のしかた

接続のしかた

① SA-907FXとサブウーファー(SWA-205)の接続(☞10ページ)
② サブウーファー(SWA-205)とサラウンドスピーカー(ST-205M)の接続(☞11ページ)

設定のしかた

SA-907FXでスピーカーの数を設定してください。
さらに最適なサラウンド再生をお楽しみいただくように、音が届く時間を一定にするため、視聴位置からのスピーカーの距離を設定することができます。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量を設定することもできます。各設定は、SA-907FXの取扱説明書をよく読んで行ってください。

接続をする

① サブウーファー(SWA-205)とSA-907FXを接続する

付属のSWA-205専用接続コードを使って、下図のように各端子を接続します。
電源プラグは、まだ接続をしないでください。

ご注意

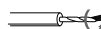
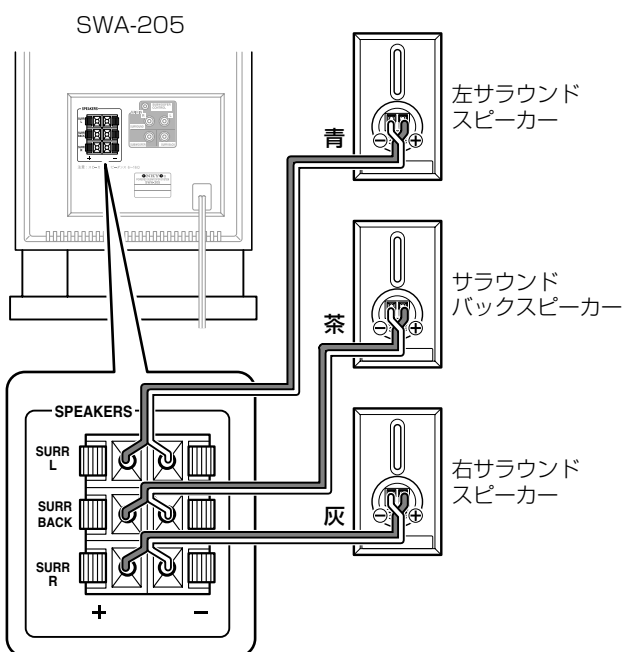
SUBWOOFER CONTROL端子に接続する際は、近くにあるRI端子と間違えないように気をつけてください。

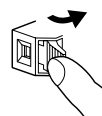
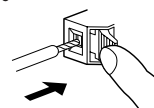
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。
  接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- 専用接続コードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

スピーカーを接続する前に

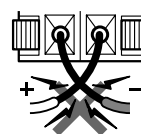
付属のスピーカーコードの準備をします。

①スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。

②しん線をよじります。

サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続

スピーカー端子への接続方法

①レバーを押します。

②しん線を穴の中に入れます。

③レバーをはなします。

危険

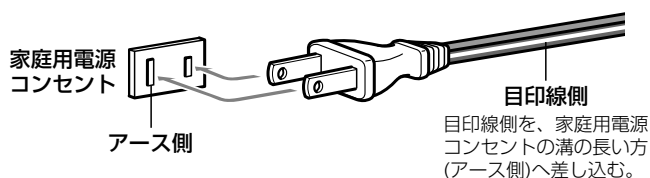
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはLとRなどを絶対に接触させないでください。

- 各スピーカー端子のプラス（+）とサブウーファー側のSPEAKERS(スピーカー)端子のプラス（+）、スピーカー端子のマイナス（−）とサブウーファー側のSPEAKERS端子のマイナス（−）をそれぞれ接続します。
- 付属のスピーカーコードの色が入っている方をプラス（+）側に接続してください。
- プラス（+）とマイナス（−）を間違って接続したり、スピーカー端子を間違えて接続すると、音が不自然になりますのでご注意ください。

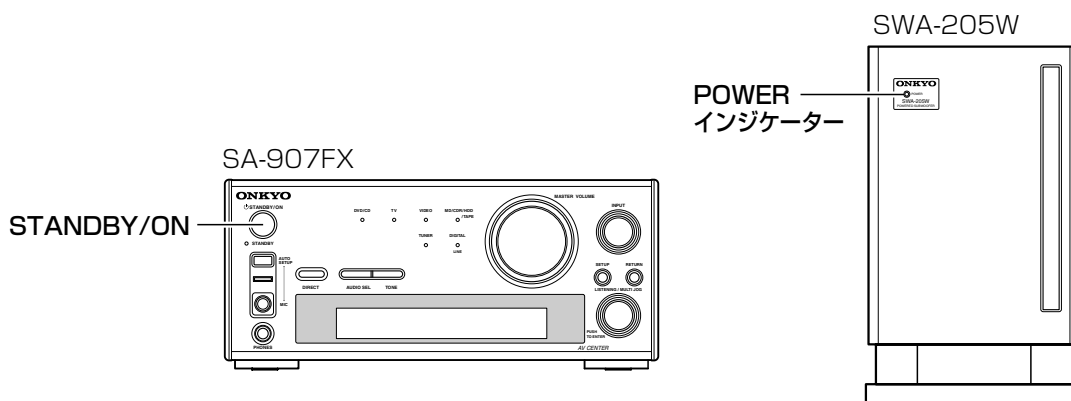
電源を入れる

電源コードを接続する

すべての接続が完了していることを確認してください。
電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合がありますので、コンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめいたします。

よりよい音で聞いていただくために
本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの片側に目印線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

例：

電源を入れる

本機は、SA-907FXの電源を入れると、連動して電源が入ります。

SA-907FX

SA-907FXのSTANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンを押す

サブウーファー（SWA-205）のPOWER（パワー）インジケーターが点灯します。
- SA-907FXの電源を切ると、サブウーファーの電源も自動的に切れます。

困ったときは

困ったときは、次の内容をご確認ください。

UWA-205はSA-907FXとの組み合わせで使用するように設計されております。
本機とSA-907FX以外との組み合わせ、サブウーファーと他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとサラウンドスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

電源が入らない

電源を入れた途端に電源が切れた

- アンプ保護回路が動作した
  直ちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくは当社サービスステーションにご連絡ください。

電源が入らない

- 電源コードがコンセントから抜けている
  電源コードのプラグをコンセントに差し込んでください。
- 正しく接続されていない
  SWA-205専用接続コードが正しく接続されているか確認してください。
  SA-907FX後面のSUBWOOFER CONTROL端子とRI端子を間違えないようにしてください。

音が出ない

電源は入るが音が出ない

- 正しく接続されていない
  SWA-205専用接続コードが正しく接続されているか確認してください。スピーカーコードのしん線が接続端子の金属部で固定されているか確認してください。
- SA-907FXのボリュームが最小になっている
  ボリュームの値を確認してください。
- SA-907FXのミューティング機能が働いている
  SA-907FXのミューティング機能を解除してください。
- SA-907FXにヘッドホンが接続されている
  ヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音声は出力されません。

スピーカーから音が出ない

- 正しく接続されていない
  スピーカーコードのしん線が接続端子の金属部で固定されているか確認してください。
- スピーカー設定が正しくない
  SA-907FXの取扱説明書を見て、スピーカーの設定を行ってください。

左右サラウンドスピーカーだけ、またはサラウンドバックスピーカーだけ音が出ない

- リスニングモードによっては左右サラウンドスピーカーやサラウンドバックスピーカーから音声を出力しません。
  SA-907FXの取扱説明書を見て、他のリスニングモードをお試しください。

サブウーファーから音が出ない

- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している
  サブウーファー音声要素(LFE)の入っていないソフトを再生している場合はサブウーファーから音が出ません。
- スピーカー設定が正しくない
  SA-907FXの取扱説明書を見て、スピーカーの設定を行ってください。

取扱いについて

お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

カラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

ご注意

テレビなどの近くに置く場合、テレビから出ている電磁波の影響で本機の電源を切っていてもスピーカーから雑音を発生することがあります。この雑音が気になる場合は、テレビからさらにスピーカーを離してご使用ください。

取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

主な仕様

※ 仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

SWA-205（4chアンプ内蔵サブウーファー）

形　式	：4chアンプ内蔵スリットダクト型
入力感度/インピーダンス	：500mV/50kΩ（SL/SR）、1V/50kΩ（SW）、500mV/50kΩ（SB）
実用最大出力	：20W×3（サラウンドバック＆L/R、1kHz・6Ω/JEITA） 60W（SW、100Hz・6Ω/JEITA）
サブウーファー再生周波数範囲	：30Hz〜150Hz
SN比	：100dB（STEREO IHF-A）
キャビネット内容積	：15.7リットル
外形寸法（幅×高さ×奥行）	：236×371×394mm（サランネット、ターミナル突起部含む）
質　量	：14.6kg
マルチchアナログ入出力端子（入力/出力）	：4ch（SB、SL、SR、SW）
使用スピーカー	：20cmコーン型
防磁設計	：有
電　源	：AC100V、50/60Hz
消費電力	：68W

ST-205M　（サラウンドスピーカー）

形式	：2ウェイ バスレフ型
定格インピーダンス	：6Ω
最大入力	：40W
定格感度レベル	：80dB/W/m
定格周波数範囲	：70Hz〜100kHz
クロスオーバー周波数	：7kHz
キャビネット内容積	：1.3リットル
外形寸法（幅×高さ×奥行）	：101×169×136mm（サランネット、ターミナル突起部含む）
質　量	：1.0kg
使用スピーカー	：8cm A-OMFダイヤフラムウーファー×1 2cm ネオバランスドームツイーター×1
ターミナル	：プッシュ式
防磁設計	：有

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　UWA-205
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。